高畠ゼミＯＢ・ＯＧ会読書会　「第５０回までの記録」

高畠ゼミＯＢ・ＯＧ会総会報告
2014 年７月５日

高畠ゼミＯＢ・ＯＧ会の読書会は、2006 年２月 18 日「高畠ゼミＯＢ・ＯＧ会ホームページ」に掲載された「一緒に読書会をやりませんか」という呼びかけから始まった。その日に行われたＯＢ・ＯＧ会の年次幹事会で決まったのを受けて、当時企画担当だった大森美紀彦さんが「呼びかけ」を執筆した。

第１回の読書会が行われたのは 2006 年３月 18 日で、会場は池袋の「みらい館大明」、テキストは鶴見俊輔他編『丸山眞男 自由について 七つの問答』であった。

読書会の正式名称は、実は現在も「高畠政治学を読む会」である。しかし、読書会のテキストの選択は、その回担当の報告者が自由に決めるという習慣が定着し、時に「政治学」の枠には収まらない著作が選ばれることもあって、次第に通称として「高畠ゼミＯＢ・ＯＧ会読書会」、さらに略して「読書会」と呼ぶようになったのである。

それから丸８年を経過して、2014 年３月 29 日に一つの通過点として、「第 50 回目」を迎えることができた。その間、途中から参加しなくなった人、逆に途中から参加した人、残念ながら鬼籍に入られた人など転変はあったものの、４人から多くて９人というこじんまりした読書会が、原則２か月に１回のペースで継続しているのは、多少は誇ってもいいことかも知れない。

この読書会は、なぜ 50 回も続き、さらに回数を伸ばしているのか。その理由は、第一に上述したようにテキストを報告者が自由に選べること、つまり自分が関心を持ったり、面白いと思ったりした本を選べることである。他のメンバーはいわば強制的に読まされる訳だが、そこに思いがけない発見をすることがよくある。語弊を恐れずにいえば、自分が報告した本より、他の人が選んだ本の方が内容をよく記憶しているほど、この“強制読書”の効果は高い。第二にメンバーの個性の違いである。一冊の本を読んで、みんなの意見が一致することはほとんどない。要するに好き放題の意見を述べるからなのであるが、意見が一致する場合があるとすれば、「この本はつまらない」というときだけかも知れない。そんなときは、概ね報告した本人も「読んでみたら、たいしたことはなかった」となるから面白い。

メンバーの中には、高畠先生が亡くなられた年齢（70 歳）を超えた人もいて、みな老境に入りつつあるが、「本を読むことができて、足腰が立つうちは止めない」と、意気軒昂なのは喜ばしい限りである。たとえ、楽しみが読書会の後の“飲み会”にあるとしても。

以下は、第１回から第 50 回までの読書会の記録である。そこでどのような報告がなされたかを知りたい方は「高畠ゼミＯＢ・ＯＧ会」のホームページを検索していただきたい。もっとも、読書会の報告のスタイルが変わって、一本一本のボリュームが膨大になっていることは反省しなくてはならない。簡にして要を得た報告を行うことが必要である（そのことはこの記録を書いている本人が一番自覚している）。いま、時代は急速に右傾化しつつある。読書会では、一人一人が何をなし得るか考えて行きたい。「継続は力なり」を信じて。

第１回　2006 年３月 18 日
鶴見 俊輔他編『丸山眞男　自由について　七つの問答』
（編集グループ＜ＳＵＲＥ＞）のうち
第二部「私があなたと考えを異にする自由」　報告：大森 美紀彦

第２回　2006 年５月 20 日
加藤 典洋著『敗戦後論』（講談社）　報告：佐藤 健人

第３回　2006 年７月 15 日
瀬戸内寂聴・鶴見俊輔著『千年の京から「憲法九条」～私たちの生きてきた時代～』
（かもがわ出版）　報告：山梨 英夫

第４回　2006 年９月 16 日
高畠 通敏著『日常の思想とは何か』
『戦後日本思想体系 第 14 巻 日常の思想』（筑摩書房）の解説として執筆
（のちに『政治の発見』（三一書房版、岩波同時代ライブラリー版、
『高畠通敏集 第２巻 政治の発見』（岩波書店）に収録）
報告：廣瀬 知衛

第５回　2006 年 11 月 18 日
斎藤 貴男著『改憲潮流』（岩波新書）　報告：大森 美紀彦

第６回　2007 年１月 27 日
『丸山眞男講義録 第３冊 政治学 １９６０』から
「第一講 政治的思考の諸特質」　報告：近藤 順茂

第７回　2007 年３月 17 日
『丸山眞男講義録 第３冊 政治学 １９６０』から
「第二講　態度・意見および行動、第三講　集団とリーダーシップ」
報告：近藤 順茂

第８回　2007 年５月 19 日
中山 元著『フーコー入門』（ちくま新書）　報告：廣瀬 知衛

第９回　2007 年７月 14 日
高畠 通敏著『戦後民主主義とは何だったか』（岩波書店）
（「占領と戦後改革」全６巻の第４巻『戦後民主主義』の序論として執筆、のちに
『戦後民主主義再考』と改題し、『高畠通敏集 第２巻 『政治の発見』に収録）
高畠通敏『「一身二生」と昭和天皇』（朝日新聞 1989 年１月８日朝刊掲載）
報告：佐藤 健人
＊管見の限り、朝日新聞の事前依頼記事（？）は単行本には収録されていない

第 10 回 2007 年９月５日
丸山 眞男著『ベラー「徳川時代の宗教」について』
（Ｒ・Ｎ・ベラー『日本近代化と宗教倫理』（未来社）の巻末に掲載
初出は「国家学会雑誌 第 72 巻４号」
のちに『丸山眞男集』第７巻（岩波書店）に収録）　報告：近藤 順茂

第 11 回 2007 年 11 月 3 日

「憲法を考える市民の会　設立趣意書（案）」についての討論

（読書会としては異例のテキストを使わなかった回。2003 年 11 月 15 日に行われた「高畠通敏先生の古稀に集う会」の際、先生が行った「市民政治再考」と題する講演（生前最後の講演となった。のちに『岩波ブックレット No.617』、『現代における人間と政治』（岩波書店））の中で、「（憲法）第九条を守るために本当に必要なのは、第九条を核としながら、前文をはじめとしてすべての条項に、市民政治の目標と精神を浸透させた新しい憲法を提示することだと私は思います」と述べたことに衝撃を受けた工藤が、上記の会を立ち上げてはどうかと考え、提案したもの。議論百出で結論を得ることはできなかった。その後、読書会とは別に「高畠ゼミＯＢ・ＯＧ会 憲法勉強会」で 2008 年から 2010 年まで２年あまり、勉強会を行ったが、結局“第九条”“天皇”“自衛隊”が躓きの石となって勉強会を閉じることとなった。しかし決して無益ではなかった）。　報告：工藤 敬吉

第 12 回 2008 年１月 19 日

神島 二郎著『政治の世界』（朝日新聞社）　報告：大森 美紀彦

第 13 回 2008 年３月 15 日

小田 実著『生きる術としての哲学～小田実最後の講義～』（岩波書店）

報告：工藤 敬吉

第 14 回 2008 年５月 17 日

姜 尚中著『姜 尚中の政治学入門』（ちくま新書）　報告：氏家 克己

第 15 回 2008 年７月 19 日

鈴木 直著『輸入学問の功罪～この翻訳わかりますか～』（ちくま新書）

報告：廣瀬 知衛

第 16 回 2008 年９月 20 日

高畠 通敏著『政治の発見』（三一書房、のちに岩波同時代ライブラリー）から

「政治の発見～近代日本の「政治」観～」

（『政治の論理と市民』（筑摩書房）、『高畠通敏集 第２巻 政治の発見』に収録）

高畠通敏教授最終講義『政治の＜原理＞について』（1999 年 立教法学 53 号）

（のちに『政治学への道案内』（講談社学術文庫版に収録）

報告：佐藤 健人

第 17 回 2008 年 11 月 15 日

森 政稔著『変貌する民主主義』（ちくま新書）　報告：工藤 敬吉

第 18 回 2009 年１月 19 日

夏目 漱石著『それから』『門』　報告：佐藤 健人

第 19 回 2009 年３月 21 日

シェルドン・ウォーリン著『政治とヴィジョン』（福村出版）から

第 15 章 ジョン・ロールズ『正義論』他、ロールズに関する論考

報告：近藤 順茂

第 20 回 2009 年５月 16 日
飯尾 潤著『日本の統治構造』（中公新書） 報告：氏家 克己
第 21 回 2009 年７月 18 日
宮台真司著『日本の難点』（幻冬舎新書） 報告：小田 輝夫
第 22 回 2009 年９月９日
オルテガ・イ・ガセット著『大衆の反逆』（ちくま学芸文庫） 報告：廣瀬 知衛
第 23 回 2009 年 11 月 21 日
佐々木 毅著『政治の精神』（岩波新書） 報告：工藤 敬吉
第 24 回 2010 年１月 23 日
高畠 通敏著『「市民社会」とはなにか～戦後日本の市民社会理論～』（世織書房）
報告：佐藤 健人
第 25 回 2010 年３月 16 日
松下 圭一著『政治・行政の考え方』（岩波新書） 報告：氏家 克己
第 26 回 2010 年５月 22 日
加藤 陽子著『それでも日本人は戦争を選んだ』（朝日出版社）報告：小田 輝夫
第 27 回 2010 年７月 24 日
加藤 周一著『言葉と戦車を見すえて～加藤周一が考えつづけてきたこと～』から
「日本文化の雑種性」「雑種的日本文化の課題」を中心に
（ちくま学芸文庫）報告：工藤 敬吉
第 28 回 2010 年９月 25 日
見田 宗介著『現代社会の理論～情報化・消費化社会と未来』（岩波新書）
『社会学入門』（岩波新書） 報告：佐藤 健人
第 29 回 2010 年 11 月 27 日
藤木 久志著『刀狩り』（岩波新書） 報告：廣瀬 知衛
第 30 回 2011 年１月 22 日
加藤 秀俊『常識人の作法』（講談社） 報告：小田 輝夫
第 31 回 2011 年３月 19 日
松本 健一著『日本のナショナリズム』（ちくま新書） 報告：櫛野 幸孝
第 32 回 2011 年５月 14 日
「原発事故に関する正確な知識を身につけるための読書会（勉強会）」
講師：立教大学元教授 佐々木 研一氏
（３．11 の東日本大震災に伴う大地震と巨大津波によって、東京電力福島第一原子力発電所の１～３号機がメルトダウンを起こし、半径 30km 以内に住む住民すべてが非難を余儀なくされるというチェルノブイリ原発以降最悪の事故が発生したのを受けて、予定を変更して元立教大学理学部の教授だった佐々木先生を招いて勉強会を行った。先生は実際に線量計を持参して、放射性物質の計測の仕方などを熱心に説明された。特に（福島県民の犠牲のもとに）東電から電力の供給を受けていた首都圏の企業や住民は「加害者意識」を持つべきだと強調された）。

第 33 回 2011 年６月 18 日
井上 達夫著『現代の貧困～リベラリズムの日本社会論～』（岩波現代文庫）から
第一部　報告：工藤 敬吉

第 34 回 2011 年７月 23 日
井上 達夫著『現代の貧困～リベラリズムの日本社会論～』（岩波現代文庫）から
第二部、第三部　報告：工藤 敬吉

（５月に佐々木先生の勉強会があったため、いつもは奇数月に行っていた読書会を急遽６月に変更。政治哲学に基づく社会分析が手強く、２回に分けて報告）

第 35 回 2011 年９月 17 日
橋爪 大三郎・大澤 真幸著『ふしぎなキリスト教』（講談社現代新書）
報告：佐藤 健人

第 36 回 2011 年 11 月 19 日
高坂 正男・橋本 峰雄著『宗教以前』（ちくま学芸文庫）　報告：廣瀬 知衛

第 37 回 2012 年１月 21 日
玄田 有史著『希望のつくり方』（岩波新書）　報告：小田 輝夫

第 38 回 2012 年３月 24 日
中沢 新一・波多野 一郎著『イカの哲学』（集英社新書）　報告：櫛野 幸孝

第 39 回 2012 年６月２日
ジョン・ロック『統治二論』（岩波文庫）　報告：工藤 敬吉

第 40 回 2012 年７月 21 日
阿部 謹也著『ヨーロッパを視る視角』（岩波現代文庫）　報告：佐藤 健人

第 41 回 2012 年９月 15 日
大山 誠一著『天孫降臨の夢～藤原不比等のプロジェクト～』（ＮＨＫブックス）
報告：廣瀬 知衛

第 42 回 2012 年 11 月 24 日
熊谷 徹著『脱原発を決めたドイツの挑戦』（角川ＳＳＣ新書）　報告：小田 輝夫

第 43 回 2013 年１月 26 日
ノーム・チョムスキー著『アメリカを占拠せよ！』（ちくま新書）
報告：櫛野 幸孝

第 44 回 2013 年３月 23 日
ニッコロ・マキアヴェッリ著『君主論』（岩波文庫）　報告：工藤 敬吉

第 45 回 2013 年５月 18 日
小熊 英二著『社会を変えるには』（講談社現代新書）　報告：佐藤 健人

第 46 回 2013 年８月 10 日
松本 崇著『山縣有朋の挫折～誰がための地方自治改革～』
（日本経済新聞出版社）　報告：愛場 謙嗣

第 47 回 2013 年 9 月 28 日

松元 雅和著『平和主義とは何か～政治哲学で考える戦争と平和』（岩波新書）

報告：小田 輝夫

第 48 回 2013 年 11 月 16 日

黒田 基樹著『百姓から見た戦国大名』（ちくま新書） 報告：廣瀬 知衛

第 49 回 2014 年 1 月 18 日

中見 真理著『柳　宗悦～「複合の美」の思想～』（岩波新書） 報告：櫛野 幸孝

第 50 回 2014 年 3 月 29 日

アレクシス・ド・トクヴィル著『アメリカのデモクラシー』第 1 巻

（岩波文庫） 報告：工藤 敬吉

以　上

文責：工藤 敬吉